

# 高知大学 病院ニュース

〔編集〕  
 高知大学病院ニュース  
 編集委員会  
 委員長 福島 敦樹  
 〔発行人〕  
 高知大学医学部附属病院  
 病院長 横山 彰仁

## 「病院機能評価更新受審について」

病院長



認定証

公益財団法人日本医療機能評価機構が実施している病院機能評価について、本院では平成16年度に初回認定されました。これは、病院の質改善を継続的に図っていくことを目的に審査を受けるもので、平成21年度に第1回目の認定更新を受けました。

その後、第2回目の認定更新の受審時期であった平成26年度は、病院再開発の期間中であったため、平成25年6月に副病院長(総務担当)を座長とする病院機能評価受審のための院内ワーキングが設置され、数回にわたり検討した結果、平成26年度は特例措置の適用を受け受審を延期することとなりました。この度、平成27年12月16・17日の二日間にわたって認定更新の訪問審査を受けることが決定しました。現在、病院全体で書類確認、面接調査、病棟概要確認、ケアプロセス調査、外来訪問、部署訪問等の審査の対応に向けた取り組みを行っているところです。

病院機能評価は、医療環境や社会の変化等に応じて病院の機能をより適切に評価し、病院の質改善活動を支援できるよう、適宜改定が行われています。今回の審査において、本院では、第三世代(3rdG:Ver.1.1)の評価対象領域(4領域)と評価項目(89項目)により、「一般病院2(500床以上)」と「副機能(精神)」の区分で、書類審査と訪問審査(サーベイヤー訪問人数7名)を受けることになります。

評価対象領域は、以下のとおりです。

### 第1領域：患者さん中心の医療の推進

患者さんの視点に立った良質な医療を実践するうえで求められる病院組織の基本的な姿勢について評価。また、患者さんの安全確保や医療関連感染制御に向けた病院組織の検討内容や意思決定について評価される。

### 第2領域：良質な医療の実践1

病院組織としての決定された事項が、診療・ケアにおいて確実に安全に実践されていることを評価される。

### 第3領域：良質な医療の実践2

確実に安全な診療・ケアを実践するうえで求められる機能が各部門において発揮されていることを評価される。

### 第4領域：理念達成に向けた組織運営

良質な医療を実践するうえで基盤となる病院組織の運営・管理状況について評価される。

今回の審査において、前回の審査と比べ大きく変わった点は、ケアプロセス調査が実施されることです。調査の内容は、訪問病棟(精神科病棟を含め5病棟)において、典型的な症例である一人の患者さんについて、診療録および退院時サマリー等を参照しながら、来院・外来受診、入院から退院までの一連の経過に沿って提供される医療サービスについて確認する調査です。

症例を通して診療・看護部門の体制や診療業務・看護サービスにおける質改善への取り組み、多職種の間等、病院全体の

運営管理状況について、診療と看護のサーベイヤーが質問しながら確認されます。

症例を担当された主治医、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、医療ソーシャルワーカー等、診療に関わった職員の皆様にお席をいただき、積極的に発言いただければと思います。

89の評価項目については、事前に現況調査票・自己評価調査票を提出し、訪問調査を受けた後、概ね6～8週間後に評価対象である中項目の評点

- S(秀でている) A(適切に行われている)
  - B(一定の水準に達している) C(一定の水準に達していない)
- の4段階で評価されます。

大学病院としての目標は、最低A、できれば幾つかの項目はSの評価を受けられるように目指しています。

なお、今回の審査から認定3年目(本院の場合は受審延期されているので2年目:平成29年度)において、「書面による確認(自己評価)」を実施し、認定時に指摘された課題(評価BおよびC)の改善状況を記述し確認を受けることで、病院として継続的に質改善活動に取り組むことが出来るように変更されています。

病院職員の皆様方におかれましては、日常業務で大変お忙しい中お手数をおかけしますが、今回の審査を通じ更なる改善活動に取り組むことで、提供するサービスの質が向上し、安全で安心な医療提供の実現が図られるよう、病院機能評価受審に向けて今後ともご協力をお願い致します。

### 〔基本理念〕

- ◆患者さんの尊厳と地域特性を重視した医療環境の実現
- ◆深い人間愛と厳しい倫理観を備えた医療人の養成
- ◆高度先進医療開発へのモチベーションを高める  
 医育研修環境の充実
- ◆経営効率をも考えた医療の推進

### 〔患者さんの権利〕

- ◆最適の医療を公平に受ける権利
- ◆他の医療機関の医師等の意見(セカンドオピニオン)を求める権利
- ◆医師等から十分な説明を受ける権利
- ◆自らの意思で医療を選択する権利
- ◆診療の内容に関するあらゆる情報を得る権利
- ◆診療に関する個人情報及びプライバシーが守られる権利
- ◆一人の人間として、その人格、価値観などが尊重される権利

## 新任のご挨拶



外科(一) 特任教授  
おおたけ まさゆき  
**大島 雅之**

平成27年9月1日付で高知大学医学部附属病院外科(一)(小児外科)の特任教授を拝命いたしましたので、ご挨拶申し上げます。

私は高知県南国市出身で、土佐高校卒業後、長崎大学医学部に進学しました。昭和61年卒業後、同第一外科(現腫瘍外科)に入局しました。3年間の一般外科研修後、国立

小児病院(現成育医療センター)で2年間の臨床研修後に本格的に小児外科の道を歩むこととなりました。その後は長崎大学病院、兵庫県立こども病院、トロント小児病院で小児外科の臨床・研究を行い、平成13年に長崎大学病院小児外科助手として赴任しました。

小児外科の特徴は存在しないものを造ることです。個性と奇形の境界は曖昧ですが、生まれながらの臓器欠損、機能不全や組織脆弱に対する外科的修復が主な仕事となります。疾患は多岐にわたり、心臓・脳神経・筋肉骨系統疾患を除いた小児外科的疾患が対象となります。

近年では低侵襲手術と手術の整容性が要求されるようになり、小児外科分野でも小切開手術や鏡視下手術は一般的なものとなっています。また小児外科医は疾患の治療のみならず、術後の経過を長期間にわたり患児、家族とともに見守る必要があります。幼小児期に手術したお子さんが成長され、その患者さんご自身の「こども」を授かった時の喜びはひとしおです。

高知県の小児外科医療水準は、残念ながら高いとはいえない状態です。小児外科疾患を県内のみで対処できない状況が長く続いたため、術後に長期間のフォローアップを必要とする患児と家族に多大な負担がかかっています。小児外科医療の充実には人材の発掘が重要ですが、疾患の特殊性と希少性から専門医の育成には長い時間を要します。小児外科の魅力を学生や若い先生たちに発信しながら、将来高知県の礎となる小児外科医の育成を目指します。今後は地域の産科、小児科を始めとする多くの先生方のご協力を戴きながら、小児医療の一端を担う所存です。ご指導ご鞭撻宜しく願い申し上げます。

## 初期臨床研修医の受賞について①

初期臨床研修医 田村恵理さんが、  
平成27年5月14日(木)～15日(金)、ホテルニューオータニ札幌で開催された  
第26回日本臨床モニター学会総会において、優秀演題賞を受賞しました。

【演題名】集中治療室患者における血圧・脈拍変動と予後との関連

【概要】集中治療領域においては血糖変動が患者さんの予後に影響を与える可能性が指摘されています。また、内科領域では血圧や脈拍の変動が循環器疾患の発生などに関連があると言われていました。そこで、私たちは血糖変動でさえ集中治療領域の患者さんに影響を与えるなら血圧や脈拍の変動も予後に影響を与えると考え、過去のデータから検討を行いました。その結果、ICU入室から24時間の脈拍変動と予後に関連がある可能性が示唆されました。

### 【受賞にあたってコメント】

今回、このような賞をいただけたことを嬉しく思います。お忙しい中、ご指導くださった矢田部先生をはじめ指導医の先生方には大変感謝しております。今回の発表を通じて、モニタリングの重要性や、バイタルの変動での患者さんの予後の予測ができる可能性を知り、医学はまだまだ未知な分野があることを学びました。これからも日々励んでいきます。



田村恵理先生(左)と  
指導医の矢田部智昭先生(右)

## 初期臨床研修医の受賞について②

初期臨床研修医 横田啓一郎さんが、  
平成27年6月7日(日)、高知市文化プラザかるぼーとで開催された  
第112回日本内科学会四国地方会において、初期臨床研修医奨励賞を受賞しました。

【演題名】急激な経過をきたしたNBTE・Trousseau(トルーソー)症候群の1剖検例



横田先生(右)と  
指導医の宮川和也先生(左)

【概要】多発性脳梗塞として本院で入院加療されていた患者さんが、1週間後に急性心筋梗塞を発症。血液検査でD-dimer, CA19-9の高値があり、全身CTで卵巣癌・腹膜播種疑いの所見が認められました。悪性腫瘍に伴い全身性に血栓塞栓症を生じるTrousseau症候群が疑われ、DIC(播種性血管内凝固症候群)に対する治療をしつつ手術を予定しましたが、全身状態が悪化し、約1か月で死亡されました。多発性塞栓症を合併し、剖検を施行したTrousseau症候群を経験したので、文献的考察を含めて報告しました。

### 【受賞にあたってコメント】

今回、このような賞を受賞できたことを、非常に光栄に思います。この場をお借りして、ご指導いただいた北岡教授や宮川先生をはじめ、老年病科の先生方に心よりお礼申し上げます。この賞を励みにして、今後の研修に臨んでいきたいと思っています。

## 初期臨床研修医紹介 Part 1

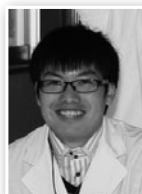
今回は17名(医:17名、歯:4名)のうち、8名を紹介します。

卒後臨床研修センター

- ①氏名
- ②出身地
- ③趣味・特技
- ④高知大学医学部附属病院での研修、ここがいい!!
- ⑤今後の抱負を一言
- ⑥将来の進路や関心のある分野



- ①宇都宮 正人(うつのみや まさと)
- ②高知県高知市
- ③テニス、昼寝、将棋
- ④学生時代からいるのでなじみがあること
- ⑤病棟業務やルートキープなど基本的なことを頑張っていきたいと思っています。
- ⑥消化器、手技のある科



- ①大山 洸右(おおやま こうすけ)
- ②愛媛県伊予郡松前町
- ③野球、映画・音楽鑑賞
- ④先生方一人ひとりが親身になって教えてくれる体制が整っており、臨床だけでなく、プチ講義のような教育の時間も充実しているところ。
- ⑤一般的な病院業務になれ、知識や技術を身につけるのはもちろんですが、患者さんとその治療にかかわるすべての人とより良い関係を築けるよう頑張ります。よろしくをお願いします。
- ⑥内科系(特に循環器に興味があります。)



- ①江口 智浩(えぐち ともひろ)
- ②高知県高知市
- ③テニス
- ④先端の医療にふれられるところ、自由なところ
- ⑤精一杯頑張ります!
- ⑥内科系



- ①小笠原 史也(おがさわら ふみや)
- ②高知県南国市
- ③B級映画ハンター
- ④知り合いが多い
- ⑤全国の同期に負けないよう頑張ります。



# 初期臨床研修医紹介 Part 1

以下4名、歯科口腔外科研修医です。

卒後臨床研修センター

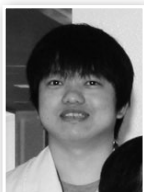
- ①氏名
- ②出身地
- ③趣味・特技
- ④高知大学医学部附属病院での研修、ここがいい!!
- ⑤今後の抱負を一言
- ⑥将来の進路や関心のある分野



- ①田中 沙帆(たなか さほ)
- ②高知県高知市
- ③ダンス
- ④歯科だけでなく医科の勉強もさせてくれるところ
- ⑤体力の続く限り突っ走ります!!!



- ①溝渕 隆宏(みぞぶち たかひろ)
- ②高知県高知市
- ③勉強
- ④歯科の大学病院や開業医ではできない経験ができるところ。日々たくさんのことを勉強できるところ。
- ⑤酒は飲んでも呑まれるな!!
- ⑥再生医療、移植治療

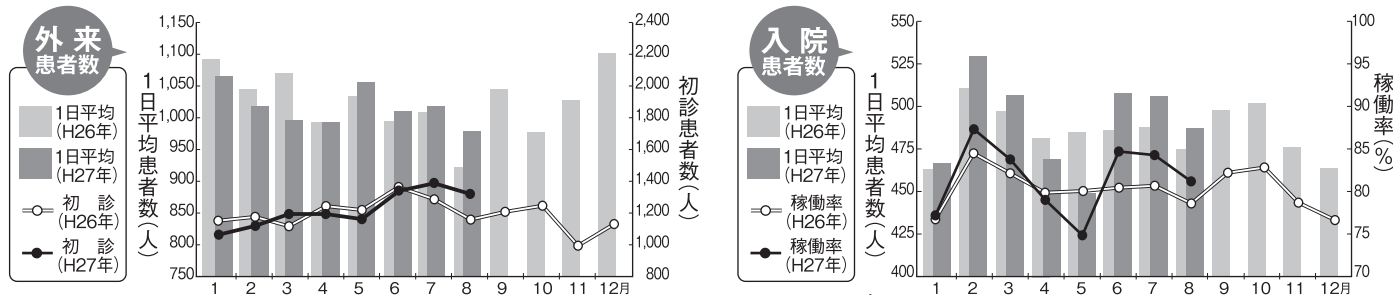


- ①谷本 幹太(たにもと みきた)
- ②高知県高知市
- ③歯の勉強
- ④他科との連携が多く、幅広い分野の知識が得られるところ。またオリエンテーションや勉強会なども充実しているところ。
- ⑤患者さんとの信頼関係を大切に、日々成長していきたいです。
- ⑥歯科口腔外科



- ①中谷 貴恵(なかたに きえ)
- ②高知県宿毛市
- ③ジョギング
- ④口腔内のことだけでなく全身的なことも詳しく学べるところ。いろいろな分野の治療を行えるところ。
- ⑤日々勉強し、1日1日を大切に研修を行っていききたいと思います。
- ⑥歯科口腔外科、微生物学

## 診療状況



病棟移転や手術部移転後の6月以降、前年同月に比べて平均患者数・稼働率ともに大きく増加。

## 編集後記

四月より病院ニュース編集委員を務めさせていただいております。編集に携わることは人生で初めての経験となります。一年間よろしくお願いいたします。

病院長より今号の一面にて説明がありましたように、今年は病院機能評価認定の更新となります。職員の皆様は、評価の準備に忙しいことと思います。日本医療機能評価機構ホームページによると、評価を受けるための準備が改善のきっかけになるとのことです。調査表を作

成し、自己評価等、訪問審査に向けた準備を進めることそのものが、医療の質の向上と効果的なサービスの改善につながると考えられます。

また、三面では、今年の研修医紹介がありました。より多くの研修医が、大学病院で研修を受けたい、さらに大学病院で仕事を続けていきたいと感じてもらえるように、職員として頑張らねばと感じております。

(文責：岡本 宣人)